

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームせせらぎの森(いちょうユニット)	評価実施年月日	平成20年12月2日
評価実施構成員氏名	岸田寿江 ・ 新野鉄兵 ・ 国金裕美 ・ 釜台直美 ・ 久保田佳介 ・ 磯大輔 ・ 佐々木律子 ・ 岩田邦彦 ・ 宮川里枝		
記録者氏名	宮川 里枝	記録年月日	平成20年12月11日

北海道

は外部評価項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
	○地域密着型サービスとしての理念			
1	地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	入居者本位の考えに基づき日々その人らしく暮らしていただける様基本理念、ケア理念を掲げている。	○	施設としての理念はしっかりあるがユニットごとでの理念も話し合いで考えて生きたい。
	○理念の共有と日々の取組み			
2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念はユニット内玄関の見やすい所に掲示していると共にスタッフルームにも掲示し理念に沿ったケアを提供出来るように取り組んでいるが、具体的に理念の達成度としては話し合いはしていない。	○	日々の理念を意識出来るようフロア会議を再確認の場としていく。
	○家族や地域への理念の浸透			
3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念はユニット内玄関の見やすい所に掲示している。		
2. 地域との支えあい				
	○隣近所とのつきあい			
4	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ホーム近隣の散歩や、レクリエーションなど近隣住民と接する機会がある時は、こちらからの挨拶は行っているが、気軽に立ち寄ってもらえるつきあいはできていない。		
	○地域とのつきあい			
5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	お祭り等の町内行事に参加している。又、小学校や保育園等の交流を実現でき行事に参加している。		
	○事業者の力を活かした地域貢献			
6	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	高校生の実習生の受け入れをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義や目的など全職員に説明し、自己評価に取り組んだが、具体的な改善への取り組みや理解までは至っていない。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月に一回の運営推進会議にて、サービスの実際等報告し、地域密着としての関わりと、認知症の理解をお話しているが、今はまだ具体的な内容にはなっていない。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	制度、運営上の問題など、直接担当者と連絡を取り合う中で、アドバイスをいただき、サービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	制度を利用されてる方は今の所おらず、制度について全ての職員が理解している訳ではない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待はしないということは職員全体に浸透している。常に利用者本位の考え方に基づいて支援を行っている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結ぶ際、又は解約時には契約書等を用いご家族が納得いくまで充分話し合い理解、納得を得ている。又今後の事も交えながら話し合いを行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ユニット玄関に意見箱を設置している。ご家族からの意見は日頃から受けられる体制に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	来訪時に入居者の近況報告し、月に一度せせらぎ通信を発行し暮らしぶりがわかる写真を載せ人事異動も併せてお知らせしている。金銭の出納に関しては個人的な買い物があった際は領収書と一緒にご家族に郵送している。又、健康状態に異変があった時や通院時、医師より説明、指示があった時は速やかにご家族へ報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ユニット玄関に意見箱を設置している。ご家族からの意見は日頃から受けられる体制に努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月フロア会議を開き意見を出し合えるような機会を作っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や受診の際は職員の人数を多くしたり必要に応じて職員の勤務調整をしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	各ユニットで職員を固定し馴染みのある職員が対応出来る様にしている。移動は必要最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員は希望があれば施設外研修をいつでも受けられるようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者会議や外部研修で交流深め、情報交換、双方ホーム見学活動を通じてサービスの向上に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員同士の人間関係を把握できる様に努めていきたい。又、ストレスが軽減出来る様職員の声に耳を傾ける様努めている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は研修会等で情報を管理者や職員に提供すると共に研修費用を負担してくれる等各自が向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居する前に本人とも面談行い本人のニーズ、課題、不安等受け止める様に努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	どんな相談も受け入れ家族のニーズを明確にしホーム側の意向を説明し理解していただいた上で入居手続きを行っている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	出来るだけ本人にも同席していただく様にお願いしている。本人、ご家族様にとって何が必要なのか時間をかけて傾聴している。又、見極めが困難な際は同意を得た上でケアマネージャーや医師から情報を得ている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に必ず見学して頂いている。在宅から入居の場合は自宅へ訪問して生活状況の把握に努め、入居後できるだけ在宅生活に近い状態で過ごしていただくようにしている。入居後は一日の様子を細かく記録し、職員間で情報を共有し、ご家族にも報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合っている。支え合えるように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人・ご家族の希望を把握し、希望は施設長・管理者・ご本人・ご家族と相談し合い、出来る限り実現できる様配慮している。困難な方にはご家族にこれまでの経過、状況をお話し、それを基に本人様がよりよい暮らしが出来る様検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご家族様やご本人様より情報収集を行っている。又、毎日のコミュニケーションの中でどんな生活でどう感じて来られたのかを聞き、把握する様努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ADLシートを作成し一人ひとりの心身状態を職員全員が把握し又、生活記録にて生活パターンの把握・体調の変化を総合的に把握する様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	既存のものと、ホームオリジナルのアセスメントシートを使い、課題とケアのあり方についてユニット会議などで意見交換を行い介護計画を作成している。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に変化が生じた際は速やかに職員、ご家族、看護師、医師との情報交換し、介護計画書の内容の見直しをしている。	○	今よりきめ細かな計画を作成していきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様一人一人の生活記録を毎日記入している。気付いた事等はスタッフで情報を共有できる様、申し送りでの話し合いやミーティングし実践につなげている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
○事業所の多機能性を活かした支援 39 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	希望があればかかりつけ医のもとで眼科、泌尿科、脳外科等の通院支援を行ったり、訪問理容の利用等、その時その状態を考えその時に1番良い支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
○ 地域資源との協働 40 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	月2回の運営推進会議を開き認知症についての説明、理解をお願いしている。又、保育園の行事に参加させて頂いたり、近くの小学校の行事、町内会のお祭りにも参加させて頂いている。		
○他のサービスの活用支援 41 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	札幌市おむつサービスや理美容などのインフォーマルサービスを利用している。他サービス事業所との情報交換を適宜行っている。		
○地域包括支援センターとの協働 42 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	管轄の地域包括支援センターだけでなく東区全体での話し合いを定期的に行っている。		
○かかりつけ医の受診支援 43 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	訪問看護師、かかりつけ医師と連携を取り、日常の健康管理の支援している。入居時馴染みの病院等受診希望あれば継続、特に希望がなければ説明し当ホームの協力医療機関を紹介している。		
○認知症の専門医等の受診支援 44 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に関しての受診が必要な利用者様には地域の精神科の医師、かかりつけの医師と共に連携を取り安心して受診、治療できる様支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に1度訪問看護師が来所し、普段の様子や気になる点等報告、相談し健康管理の支援をしている。又、レクリエーション等行事にも参加して頂き、日常以外の一面も把握して頂ける様、努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	できるだけお見舞いに行き、表情、言動に留意し不安を軽減出来る様な声かけを行っている。病院関係者と連携を取り、情報交換し、ご家族とも情報を共有し、早期退院に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族、医師、及び看護師、職員間で本人にとっての最善の選択を話し合い対応している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	職員、ご家族、看護師、医師、と接続し、重度化した場合の話し合いを行っている。日々、最悪の状況を想定した上での対応を心がけている。		
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	退去時には施設長、管理者、ご家族、担当医師との話し合いが行われ、本人の状態やご家族の希望を十分に確認し本人に合った環境と考えられるサービスへと移行している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員は入社時に接遇、マナー等の説明やミーティング等を通じ一人一人の誇りやプライバシーを損ねる事のない様に対応を心がけている。個人情報も十分に配慮し取り扱っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	おやつや、その日の服の選択等わかりやすい言葉で、例えば2者択1等選択して頂く等ご自身で決めて納得し暮らせる様に支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活習慣、ペースを大切に、その状態や体調に留意しながら、その人らしい暮らしが出来る様可能な限り支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様、出来ない所をお手伝いし、支援している。理美容は月1回来所して下さり一人一人希望をお聞きし、行っている。又、ご家族の方の来所時にご家族が散髪されたりしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その方の出来る事をその日の体調、状態を見ながら、職員と一緒にしている。その人によっては習慣、役割として進んでされる方もいる。楽しみながら準備や食事が出来る様声かけをして関わりを持っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコを吸う方は喫煙所で吸って頂いている。カロリー制限のある方に関してはご家族様、ご友人の方が持ってこられた物は、こちらでお預かりし、おやつの時に提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	その方の状態、状況により紙パンツ、パット使用されている。排泄の習慣、リズムを把握し、顔色、仕草、言動、様子を見てプライバシーに留意しながら声かけし誘導を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	日曜日のご家族の来所が多い為、お休みしているがその他の曜日でその人が入りたい時に入って頂く様支援している。意思の伝えられない入居者様に関しては状態に留意し声かけしながら入浴して頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の生活習慣やそのときの状況に応じて安心して気持ちよく眠れる様支援している。又、夜間や体調により日中の休憩が取れる様にしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々の生活の中で一人ひとりの出来ることを見極め、役割が持てるように支援しているも全員ではない。又、趣味や得意な事が楽しく発揮できる様声かけし促している。	○	入居者様全員がそれぞれの能力に合った役割を持ち楽しみや張り合いにつながる様なきっかけ作り、声かけ等取り組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人一人の状態によりご家族様と相談しながら、その方に合ったお金を所持して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個別の買い物や散歩等は希望があった際や、職員がお誘いしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お墓参りや節目の行事、お正月、お盆等の帰省はご家族の協力と入居者様の体調を考慮し、外出、外泊されている。又、ホーム内でのレクレーションにて、各入居者様の体調、気分に合わせて多人数での外出も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様の要望があった際は、随時行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は馴染みの方、ご家族がいつでも面会出来る様、規制はしていない。一緒に過ごされる場所も自由にお好きな場所でくつろげられるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	特にスピーチロック、ドラックロックに対して取り組んでいる。外部研修へも積極的に参加し、事例をもとに協議しあっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関には施錠せず、自由に外へ出られる様にしている。玄関には戸を開けるとチャイムが鳴る様にしており、入居者様の所在、行動に留意している。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜問わず、居室の戸を閉めたり鍵をする事は自由にしているが、声かけを見守りし状態の確認をしている。又、所在や様子確認見守りしている。	○	職員同士声をかけ合い常に職員全員が所在の把握が出来ている様取り組みしていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりに合わせて危険なハサミやカッター、剃刀等はお預かりし、注意の必要な薬品、内服薬はこちらで保管している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防 ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応 じた事故防止に取り組んでいる。	ひやりはっと、事故報告書を作成し、繰り返さない様に努めている。	○	事故後から現在までの状況報告に対してのフォーマットを検討している。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行っている。	スタッフルームに救急マニュアルがあり、いつでも目が通せる所に置いてある。	○	緊急マニュアルを作成し、スタッフには救急救命講習を受講し事故に対 応出来る様にしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身ににつ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ よう働きかけている。	スタッフルームに非常時対応マニュアルがあり、いつでも目が通せる所に置いてあ る。	○	今年度は避難訓練を実施していないので、今後最低でも年2回は実施す る。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家 族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切 にした対応策を話し合っている。	ご家族にはこまめに連絡し、状態、様子報告し、理解して頂く様説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている。	常に様子観察、容態変化に留意し気付いた際は職員で観察相談し、看護師、医師に 報告、指示を受けられる様連携を取っている。	○	職員同士のコミュニケーションをしっかりと取ってゆき情報の共有をは かっていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解して おり、服薬の支援と症状の変化の確認に努 めている。	処方箋はアセスメントファイルに綴り、いつでも内服内容を確認できる様になってい る。又、飲み忘れ、誤薬がない様、薬には、名前、服薬日を記載し内服までに3人の スタッフが薬の確認を出来るようにしている。又、受診後は職員への送りノートに 注意点、観察点を記載し、職員全員に周知し、症状の観察に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分補給のチェックや、メニューにて繊維質の多い物を摂って頂いたり運動の促し等 している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後全員の口腔内確認出来ていないが、一人一人に合った支援、声かけし、口腔ケア、うがいをして頂いている。又、就寝時、起床時や訪問歯科の先生と連携をはかり、口腔内の把握している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方よっての食量や栄養バランスに配慮している。又、食べやすい大きさや、やわらかさ等も注意している。水分量も不足しない様、一人一人の状態に合わせ提供し、水分チェックを行っている。	○	その日によって水分不足している事もあり、少なければ補う様、支援していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	衛生管理マニュアルがあり、日常の手洗い、うがいの実施、インフルエンザの予防接種し、ホーム内に持ち込まない様にしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具等の衛生管理に留意し消毒を行っている。食材は、古い物から使っているが、鮮度に注意し賞味期限切れの物は使っていない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物の1階入り口付近には花壇があり季節により花が咲いている	○	フロア玄関に花を飾ったり、暖かい雰囲気になるような工夫をしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間には窓がない為、フロア内に季節の花を飾ったりクリスマスツリー等行事に合わせ飾っている	○	窓が無いため、視覚で季節を感じられる様な装飾に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間には入居者様全員が談話できるテーブルや気の合った人達だけで談話できる様な4～5人でくつろげるスペースと別れて配置している		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人の馴染みの物を持ち込んで頂き、使いやすい位置等、ご家族、本人様と相談しながら配置している。又、本人様の思い出や思い出入れのある写真をお部屋に飾っている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	入居者様が集まるリビングでは温度計・湿度計を設置。その日の天気、気温に合わせて加湿や暖房、換気等行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内は必要部に手すり、又、手すりの無いカウンター部を手すりのたかさにしている。廊下も長く歩行運動の場になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや浴室に表紙をつけている。又、各居室に表札をつけている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の1階回りに花を植えてあり、その花に水をあげたり手入れされたりしている。又、2階事務所でプランターに野菜を育てているので、大葉やチンゲン菜等収穫し食事に使ったりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えています。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）
 せせらぎに森では、特にレクリエーションに力を入れています。窓のないユニットのため、少しでも外の空気にふれ、季節を感じていただきその中で楽しみや喜び、又自信等に繋げていってもらえるような関わりをしています。